

日中友好協会創立60周年記念岡山集会

日中友好協会60周年記念岡山集会に参加された方々からの感想が多数寄せられました。その一部を紹介いたします。

偏見に根差した

中国観に屈せず

倉敷支部理事 福田広史
(倉敷医療生協労組)

日中友好協会創立60周年記念講演祝賀会に参加して、示唆に富んだお話や楽しい催しもにふれることができ、個人としても有意義な時間を過ごさせていただくことができました。

第一部の記念講演では本部署務局長の矢崎さんに、日中の歴史について講演をいただきました。一時間弱という時間でしたが、中国の劇的な変化と世界の関わり、その中で日中友好協力の関係の重要性と協会の果たしてきた役割について語って頂きました。

いま現在も、色々な物議を醸し出しているように報道される中国ですが、その裏にある変化しようと努力している本当の姿勢を常に認識していなければ、メディアの流す不正確な中国像に踊らされてしまうと感じました。

そして、中国側には日本側のような草の根運動の認識が充分ではなく、そういった意味でも個人レベルの関わりによって、



題字 藤原田 親

No. 618

2010/10/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒110-0052 東京都千代田区千代田
西3-1-1 東武ビル3階

日中友好協会
岡山支部
〒710-8236
岡山市東区3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号1100
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8911
倉敷市連島中央1-8-1
(宮地方)
TEL/FAX:0860-446-2711



中国人の意識を少しずつでも変化させていくことが重要ですし、それに足る努力を協会はこれまでの経過の中で続けていることを、一人ひとりが確認することが大切だとも感じました。

盲目的な擁護者にならず、偏見に根差した中国観に屈せず、熱い理想をもちながらも冷静なものの方で関わっていく、そんな姿勢が求められていますし、そういった人を両国間で増やしていくことが、本当の意味での平和的解決につながると思います。

第二部では、料理を囲んで催し物で楽しませていただきました。太極拳や三線・オカリナ演奏などがあり、サプライズ演目として矢崎さんの蒙古踊りも

披露されました。お父様が本当に大切に踊られていたその背中を思い出しながら、録音してあるお父様のドラと声と一緒に踊っていただきました。文化の裏に脈々と流れている人々の思いや歴史に触れることの素晴らしさを垣間見ましたし、中国はもろろん自分の国の文化ももっと知りたいと思いました。

笑顔いっぱいのでした

縁あつて太極拳を習うようになり、頭と身体を使つて、健康づくり、仲間づくりに楽しい日々を過ごしています。

このたびの記念すべき会に参加させていただき、どれほど大勢の方々が、それぞれの立場で労をいとわず、日中友好のために、たゆまぬ努力をされている



かを改めて知りました。本当に感動いたしました。

本部から駆けつけてくださった、矢崎光晴事務局長のご講演は、非常に興味深いものでした。珍しい蒙古踊りも！もつと広く深く中国という国について知らなければいけないと思いました。

折しも、尖閣諸島問題、フジタ社員拘束問題等が起きて、日中の関係は非常に敏感になっていますが、私たち市民レベルでは、小さな力であろうとも結集して、あくまでも平和な関係をつくり上げることが大切だと思います。私たちの求めるものは、平和以外にはありません。この会を開催するに当たり、お世話になりました皆様、有難うございました。

太極拳講習会 余公 昌子



日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://izhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp

rizhong86@hotmail.co.jp



挨拶 矢崎光晴様

日中岡山理事 貝吹佳代子
矢崎事務局長に初めてお会いしたのは、今年の5月、中国ブロック大会でした。

日中友好協会に入り、まだ右も左もわからないときに、事務局長の一つひとつのお話は、目から鱗の連続でした。今でもあの時のことは鮮明に覚えています。そしてこの日、日中友好協会創立60周年記念集会での「蒙古踊り」も、言葉が見つからないほどの感動でした。

黒の鉢巻をキリッと締め、黒の民族衣装で入った瞬間に、そこにいた参加者全員が、矢崎ワールドの中に吸い込まれてしまいました。お父様の声が入った、お父様ご自身が作られたカセットテープで踊られる姿や、私たちの円卓の間を駆けて行く様子は、正に、蒙古の勇者その者でした。

元戦犯であったお父様が、管理所で、「二度と再び同じ過ちを繰り返してはいけない」という思いで、踊り続けられた「蒙古踊り」。

確実にその思いは、矢崎事務局長に引き継がれ、そして会場にいたすべてのひとびとの時間を止めてしまった、その踊りを通して「日中不再戦」という意味を、改めて教えられたような一日でした。

矢崎事務局長、ほんとにお疲れ様でした。そして、こうしてまたお会いできたことを感謝します。



中国語講座 講師の会懇親会

10月2日(土)午後6時半から岡山駅西口の「又来軒」で、第18期の懇親会が開かれました。当日16名の方々が参加され、今までで一番多い参加者でした。

日中岡山からは、理事長の内さん、事務局長の小林さん、理事の西森さん、私真田の4名でした。講師の先生は郭志華さんと馬小菲さんの2名でした。

講座からの参加者は、福祉交流プラザ入門クラス(水)から堀さん、旭公民館初級(火・昼間)クラスから坪井さん、旭公民館初級クラス(月)から近藤さん、岡輝公民館初級クラス(金)から梨木さんと三尾さん、旭公民館初級クラス(火)から小野さん、旭公民館中級クラス(金)田淵さん、岡輝公民館中級クラス(火)から亀鷹さんと平岩さんの9名でした。

もうお一人は、大元公民館中級クラスで学んでいらつしやうた竹内さんが参加してくださいました。

現在残念ながら、大元公民館の中級クラスは閉講になっていきます。またいつか再会できるように考えています。

坪井さんから「日中岡山の中国語講座で勉強したら、中国語が話せるようになった。という風になればいいのね。」という発言がありました。みなさん頑張ってください。

真田紀子

中国帰国者との交流会 9・18柳条湖事件の日



さいでん詩吟の会・扇舞菊水会のみなさん

9月18日(土)福祉交流プラザさいでんにおいて、中国帰国者との交流会が72名の参加で開催されました。

帰国者と地域の人々のささやかな交流を通して、お互いの正しい姿を知って行こうと始まった集いも今年で四回目。

中桐館長から「帰国者の多い地域のプラザとして、ささやかなですが日中友好の一助として続けています」また、今日の交流会で知ったこと、感じたことを家族に伝えてほしい」とあいさつがありました。そのあと、中国と日本の伝統文化の競演が始まりましたが、日中岡山の中国語講座講師の馬小菲さんの通訳・司会で会は大いに盛り上がりました。

最初に今年4月に来日したばかりの馬さんの弟・馬英飛さんが中国雲南省の民族楽器・胡芦絲(ふるす)を演奏しました。曲は「月光下的鳳尾竹」。内モンゴル旅行のスライドをバックにしての演奏は、雄大な草原に吹きわたる風のごとく心地

よい響きでした。続いて高杉久治さんと黄艶萍さんによる二胡の演奏で、「太湖船」や「モリカ」など中国の曲では風流な音色に聞き入りました。益田俊幸さんによるハーモニカ演奏では「故郷」などのなじみの曲に口ずさむ人も多く、みんな大いに楽しんだ後はおいしいお抹茶をいただきながらの交流です。

後半はさいでん民謡の会・詩吟会・扇舞菊水流の方たちの日本民謡や詩吟・扇舞を堪能しました。

成田宣子

時あたかも9月18日「9・18」といえば、今から79年前のこの日、中国東北地方の奉天(今の瀋陽)近郊で、関東軍が自ら南満州鉄道の線路を爆破した日です。日本は中国側の作業だと宣伝し、これを口実に中国東北部を占領、やがて中国全土に侵略していきました。

こうして2000万人ものアジアの人々の命を奪い、日本国民も300万人以上が亡くなった15年にもわたる侵略戦争がはじまりました。

太極拳講習会第74期修了式

9月11日さんかく中止にて、第74期の修了式を行いました。今期修了者2名、3級認定者3名、この夏記録的な暑さにもかかわらず、11名が皆勤賞を授与されました。

岡山支部の講習会は熱いですが、それに先立ち、各クラスの結果発表の表演をしましたが、その中で、小学生3名の演技に感心。それを見守る温かいまなざし。まるで孫を見ているようなほんわかした空気に包まれました。そのあとは、中級の陳式簡化、ぴりっと引き締まり、いい修了式になりました。仕事やいろいろな都合で教室に行けない時期もあるかもしれないがいつでも通える教室に、門戸は開けています。がんばりましょうと決意を新たにしました。

指導員 岡田 民

20名ほどの弱小教室ですが若いエネルギーを得て、未来に向かいがなります。10月から75期の講習生を募集しています。

上野千鶴子を読む会

日中岡山9条の会

10月16日(土)午前10時

場所：岡西公民館
参加費：無料
取りあげる本：『世代間連帯』
上野千鶴子、辻元清美対談集



次回の新聞発送作業は10月21日(木)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

林田和
小真内
竹内袈
竹坪